

adphox

事故を未然に防ぐ コロナ放電試験器XTシリーズ



アドフォクス株式会社



1. コロナ放電の危険性



- ◆ コロナ放電が起きていても、出荷検査では製品は正常に動作する。
- ◆ 出荷後暫くしてから絶縁が破壊され、製品が壊れる。
- ◆ 従来 of 検査(絶縁耐圧試験機)では検出できない。

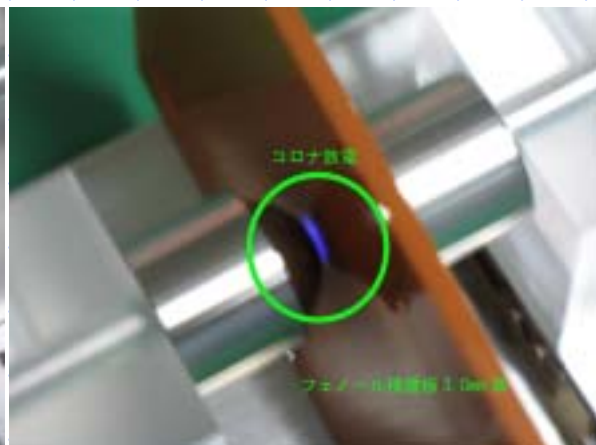
2. 絶縁物が破壊される

- ◆ コロナ放電現象が起きている空間では、化学変化が激しく起きる。
- ◆ コロナ放電が発生していると、時間をかけて絶縁が侵食され、最後は絶縁破壊に至る。

(注意) 絶縁材を入れてもコロナ放電の防止にならない。



(1) ギャップ3.2mmの場合5kVrmsを印加しても放電しない



(2) 放電しないギャップに厚さ3.0mmの絶縁板を入れるとコロナ放電が始まった



(3) 厚さ3.0mmのフェノール積層板が焼けてしまった

3. コロナ放電の対策

- ◆ 製品がコロナ放電し難いように、設計を工夫する。
- ◆ コロナ放電し難い部品を使用する。
- ◆ 製品の出荷時にコロナ試験機で全数検査する。



↓ そこで役に立つ試験機が
アドフォクス社のXTシリーズです

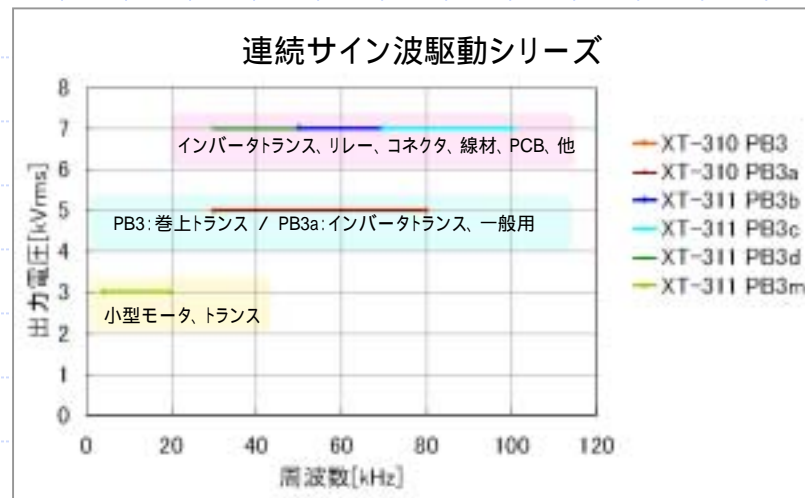
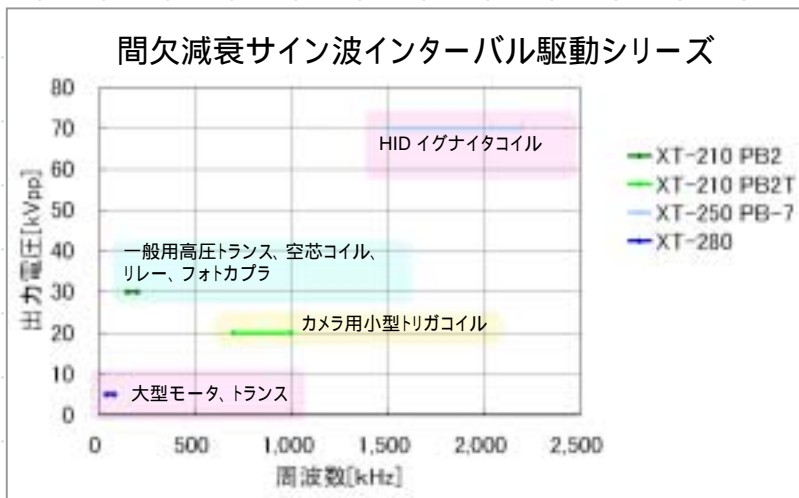
XTシリーズならコロナ放電を検出できます

従来の絶縁耐圧試験機では検出できない。

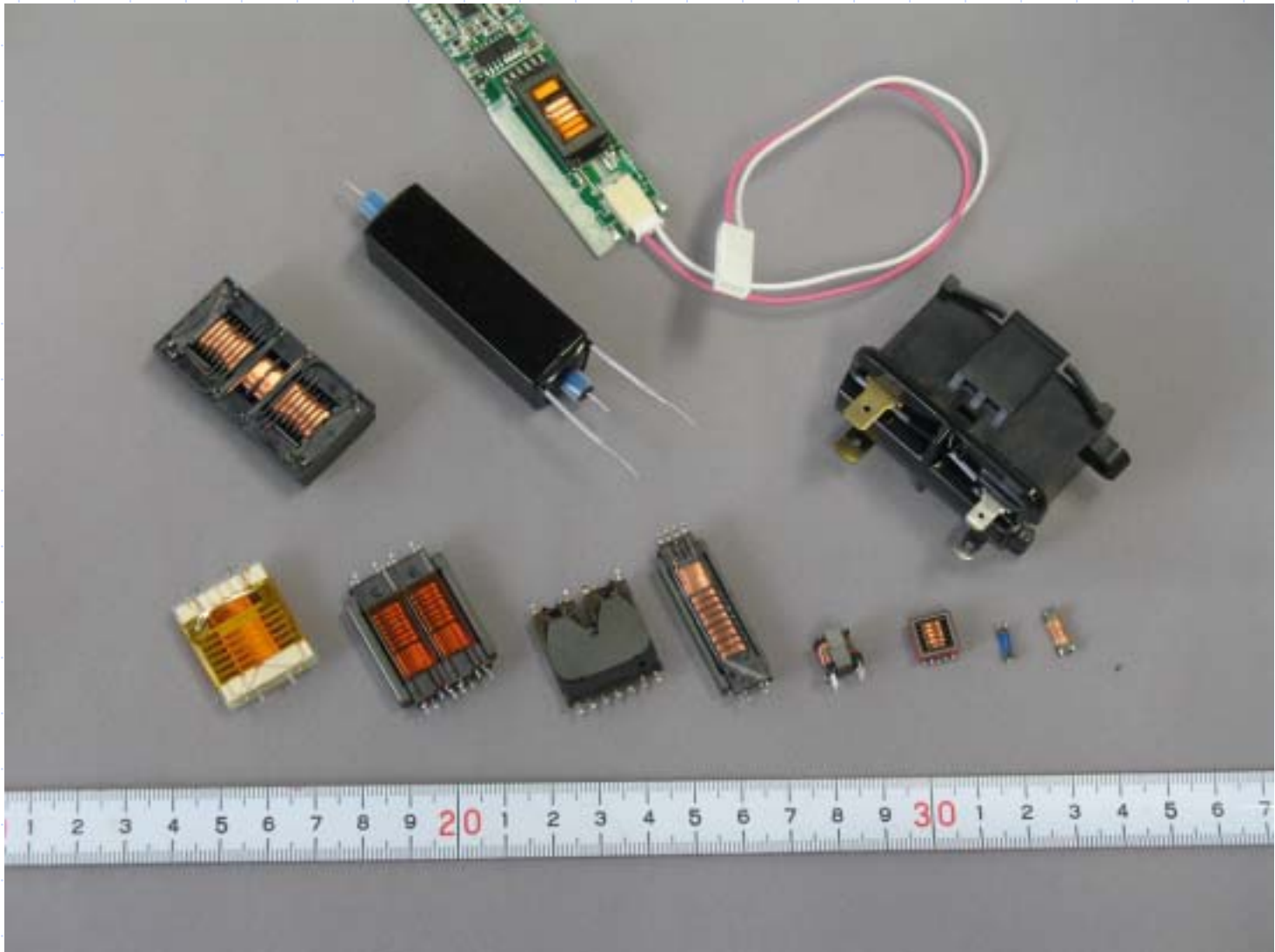
1. 短時間で検査できる。
2. コロナが発生したら瞬時(10msec)に停止出来るので、**非破壊検査**が出来る。
3. アドフォクス社独自のコロナ検出器を搭載。



4.実績と充実のラインナップ



- ◆ アドフォクス社のコロナ試験機XTシリーズは、日本の液晶TVやモーター、その他のメーカーで200台以上が使用され、その信頼性に定評があります。
- ◆ 研究開発から品質管理、製品の出荷時における全数検査まで活躍する汎用性の高さを誇ります。
- ◆ コロナ試験機ならアドフォクスのXTシリーズです。



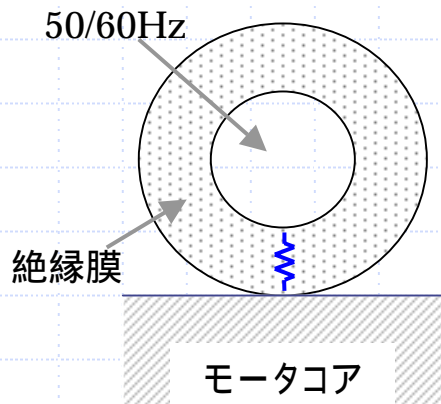
数多くのトランスや部品での実績があります

5. モータ巻線の“はみ出し線”検出

◆ インシュレータからの“はみ出し線”がモータコアに接触した場合

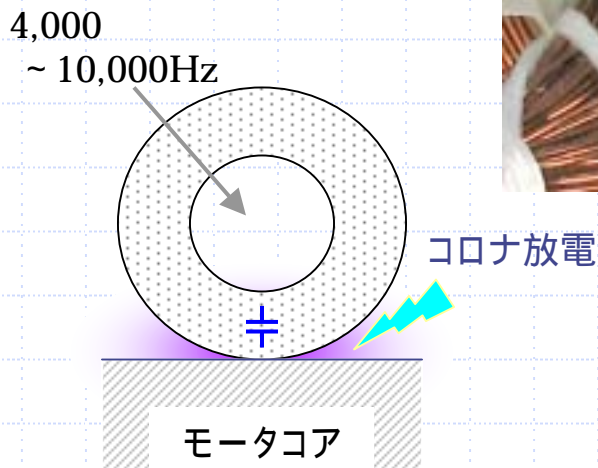


絶縁耐圧試験機



抵抗が大きいと電流はほとんど流れないので、コアに接触しても検出できません。

コロナ試験機



浮遊容量を通してコロナ放電が発生するので検出できます。